

センターだより

きゅと!

子どもたちの目標



「規則的な生活と元気な体づくり」
「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
「自分のことは自分でする」
「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
「知らない所でもなじむことができる」
「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」

令和5年1月号

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

あけましておめでとうございます

新しい年の始まりです。今年もみなさんとともに、充実した1年を過ごしたいと思っております。元気な子どもたちに負けないよう、職員一同がんばってまいります。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

1月の予定

6日(金)療育スタート	20日(金)太子講 11:00~
9日(祝・月)おやすみ	21日(土)おやすみ
14日(土)おやすみ	30日(月)避難訓練 保育棟

おしらせ

○実習生が来ます クラスに入りましたらよろしくお願ひします。
1/10(火)~3/2(金) 大阪国際福祉専門学校 社会福祉士 1名

○写真販売があります



10月~12月までの写真を「はいチーズ!」にて販売致します。何かご不明な点がございましたらクラス担任までご相談ください。
写真申し込み期間: 1/15(日)~1/31(火)

○児童発達支援アンケートを実施します

児童発達支援事業に関するアンケートを実施します。集計結果についてはホームページに掲載するとともに、より良いサービスを提供できるよう活用させて頂きます。恐縮ではございますが、締め切りを1/24(火)とさせて頂きます。大変お手数ですがご協力をお願い致します。

○体調管理をお願いいたします

長かったようで短かったお正月休みも終わりましたが、みなさまどんなお休みを過ごされましたか? 大阪府内では昨年末に“大阪府新型コロナウイルス警戒信号”が赤色に変わりました。赤色に変わったことで、当センターの対応が一部変更となっております。詳しくは、昨年末に配布しました『新型コロナウイルス感染症への対応について』をご確認ください。

また年末年始は人の往来が増加し、新型コロナウイルス感染症だけでなく、その他感染症が流行する時期でもあります。お子さま・ご家族さまの体調管理に気をつけていただくと共に、体調が「いつもと違う」際には早めの休養をお願いいたします。





【くだらないもの？】

私が子どものころ、給食の牛乳瓶のフタを集めていた時期がありました。数を競って沢山集めたり、メンコとして遊んだり、レアなフタ（製造日の印字がゾロ目）を手に入れて誇らしげな友人を羨ましく思った記憶があります。他にもトミカ、ガンダムのカード、ガシャポン、謎の文房具（ロケット鉛筆やねり消し）、等々…親からは「くだらないものを…」と言われることもありましたが、夢中になって集めていました。

保護者の皆様は、お子さんが大人から見て何が面白いのかわからないものへの興味について疑問を感じられたことはないでしょうか。今回は、保護者の皆様からご相談として挙げられる興味のかたよりを通して、お子さんの「好きになる力」について考えていきたいと思います。



【興味のかたより】

特定の物に対して強い関心をもつお子さんがいらっしゃいます。よく見聞きするのは、数字、図柄、平仮名、エレベーターのボタン、換気扇の回転、蛇口から流れる水、昆虫、魚、恐竜、車、電車、時刻表などです。療法では、興味のかたより・こだわりによる生活上の困り感や、お子さんの興味の拡がりにくさについてのご相談をよくお受けします。ご相談の内容をお聞きする中で、著しく不適切と判断される内容であれば、そこへの対応が必要になる場合は確かにあります。ネガティブなイメージを抱かれがちな興味のかたよりですが、強い興味のある対象を学びの動機づけとして活かす視点もあります。

たとえば、大好きな電車を教材にすれば、マッチングなどの机上課題、手先を使った作業に意欲的に取り組んでくれるかもしれません。また、電車の教材をお子さんの目に入るけど自分では届かない場所に配置することで、大人に要求を伝える場面を設定することもできます。日常生活で「ちょうだい」の促しが必要だったあるお子さんの例ですが、大好きな爬虫類カフェに連れていってもらった時に、自発的に店員さんを呼び、お目当てのトカゲをとってほしいと要求している姿を見て驚いたというエピソードを、保護者さんからお聞きしたことがあります。

興味のかたよりやこだわりによる生活上の困り感が生じにくい環境や流れを設定する視点も大切ですが、興味が強いからこそできることもあるのではないのでしょうか。このようなエピソードにこれまで出会ってきました。



【好きなものがあれば】

お子さんの興味の対象の中には、今後の役に立ちそうな感じのするものもあれば、あまり感じられないものもあるかもしれません。しかし、何かを好きになるということは、直感的で盲目的で、そこに明確な理由はない合理性を超えた存在ではないのでしょうか。「好きなもの」があれば、生活の中でしんどいことがあっても気持ちをリセットするきっかけになったり、好きなものを目標に頑張れることもあるかもしれません。我々大人も、何かしらの楽しみを期待しながら、日々の育児や家事、仕事に向き合っています。「何が好きか」に目が向きがちですが、「好きなものがある」こと自体にも意味があるのではないのでしょうか。

児童精神科医の山登敬之さんは著書でこのようにおっしゃっていました。

「たとえ無駄に見えることであっても、好きなもの、夢中になれるものがあれば、人生は豊かになるし人は幸せになれる。こどもたちの特殊な才能は、いずれそのようにして役に立つでしょう」